

NU7

National University Seven

国立七大学の総合同窓誌

2016.09 No.7

開幕! 七大学戦

講演録：シーボルトの藤の木

七大学・同窓会・会員活動情報

学 士 会

名古屋大学全学同窓会 (NUAL)

の発足から14年間のあゆみ

名古屋大学全学同窓会代表幹事・国立岐阜工業高等専門学校校長・
名古屋大学大学院招聘教員（客員教授）・名大・工博・工・昭50

いとう よしと
伊藤 義人

1. はじめに

名古屋大学全学同窓会が平成14年10月27日（日）に設立されてから14年目を迎えています。法人化を前にして、従来からあった部局・学科・研究室などの同窓会だけでは不十分で、大学全体をカバーして大学支援をする全学同窓会が必要でした。名古屋大学全学同窓会は、11万人を超える会員を持つ名古屋大学全体の同窓会であり、名古屋大学の卒業生・修学生だけでなく、現旧教職員などの名古屋大学関係者全員が正会員の組織として立ち上げられました。一時に大きな資金を集めて、一部の私立大学の同窓会のような活動を行うべきという議論もありましたが、10年後、20年後に後ろを振り返った時に、設立の理念に沿って成長していることを少しでも実感できる総合国立大学らしい全学同窓会にすることが基本方針でした。これらの発足の経緯は、設立後す

ぐに『学士会会報』（No. 838、2003年）に報告しましたので、その後の経緯と最近の動向を報告します。

2. 全学同窓会組織

全学同窓会の組織構成は、当初からほとんど変えておらず、評議員会、幹事会、幹事会運営委員会、責任幹事連絡会、各種委員会（事業、広報、連携、名簿）から成り立っています。各種委員会当初あった財務と企画は、幹事会運営委員会に吸収されました。各部局同窓会から、2～3名の委員を評議会と幹事会に出してもらっています。日常の活動は、幹事会と幹事会運営委員会（代表幹事と各種委員会委員長）の下、同窓会事務局（代表幹事が総括）が担っています。

会長および副会長についても大きな変化はありません。会長の豊田章一郎氏（トヨタ自動車名誉会長）および副会長の丹羽宇一郎氏（元駐中

国日本大使)、柴田昌治氏(日本ガイシ相談役)、岡田邦彦氏(元J.フロントリテイリング代表取締役会長)、斎藤英彦氏((独)国立病院機構名古屋医療センター名誉院長)は設立時からずっと継続しており、柳原定征氏(日本経済団体連合会会長)と宮池克人氏(NEXCO 中日本社長)は、設立時から数年遅れて副会長になりました。代表幹事の私は、2期4年の規定を自ら設けたのですが、4年目に規定が改正され、他の候補が出たことも数回ありましたが、2年ごとの選挙で続けて再任されています。

3. 全学同窓会の活動

1) 大学支援への直接支援

全学同窓会の直接的な大学支援は、大学支援基金、寄附講義および人材提供などがあります。大学支援基金は、平成16年から始め、毎年450万円(平成28年度)の予算で、1件最大50万円で、春と秋に公募しています。審査は、責任幹事連絡会で投票をして決めています。a) 大学本部・部局支援、b) 学生活動支援、c) 就職支援およびd) その他を対象にしています。これまでに122件、約6,382万円を大学に寄附しました。

一方、寄附講義は、平成16年から始め、通年授業の「キャリア形成論」に関わる講師の旅費や謝金を支

援しています(総額546万円)。毎年約400名の学生が受講し、大変評判がよい講義です。全学同窓会から講師を推薦したこともあります。

経営協議会などのメンバーとして、全学同窓会の3人の副会長が入っているなど、大学の組織やプロジェクトに多数の卒業生・修了生を人材提供しています。名古屋大学基金への協力も人材提供も含めて行っています。

また、卒業式と入学式には来賓として、豊田会長(副会長が代理するときもある)が挨拶をされています。卒業式の式典のため、全学同窓会は、名古屋大学のアカデミックガウンの原案を作り、大学の役員会で承認決定されました。全学同窓会が、卒業式の壇上に登る、総長をはじめとする役員および部局長にガウンを寄附し、平成25年の卒業式から着用が始まりました。平成27年度の卒業式では、学部、修士、博士の各部局の総代にもガウンを寄附しました。留学生はこのガウンを非常に喜び、記念写真を撮るだけでなく、購入して持ち帰る人もいます。

2) 国内支部の設立

関東支部(丹羽宇一郎支部長、平成16年設立)、遠州会(庄田武支部長、平成16年認定)、関西支部(笥哲男支部長、平成17年設立)の3つが国内支部として設立され、活発な活動がなされています。関東

支部は、学会から名古屋大学へ無料貸与されている地下の部屋でほぼ毎月幹事会を開催しています。毎年の総会には、同窓会本部から代表幹事が参加しますが、歴代総長にもこれまで全てにご出席いただいています。わずかですが、同窓会本部から会議費程度の財政支援を国内支部に行っています。

3) 海外支部の設立

名古屋大学の全学同窓会の特徴として、年々アジア地域の海外支部を設立し、現在15の海外支部(韓国、バングラデシュ、上海、タイ、北京、ベトナム、カンボジア、モンゴル、ウズベキスタン、台湾、ラオス、ミャンマー、インドネシア、フィリピン、マレーシア)が活動しています。設立総会は原則現地で行い、総長と代表幹事および連携委員会委員長な

どが出向いています。平成26年12月に設立したフィリピン支部の設立総会には、豊田会長夫妻と濱口総長(当時)にもご参加いただきました。既に10周年記念事業を実施した支部もあります。アジア各国は、それぞれ種々の事情を抱えており、支部長の選び方も様々です。事前に連携委員会委員長や代表幹事が、事前打ち合わせに出向いたこともありましたが、それ以後は独自に活動することを要請して

いました。しかし、平成28年度からは、わずかですが会議費を15の海外支部に配分することになりました。

4) ホームカミングデイ支援

4) ホームカミングデイ支援

ホームカミングデイは、全学同窓会から大学に要請し、法人



アカデミックガウン着用の平成27年度卒業式(壇上:松尾総長・役員・部局長、手前:各部局の総代)

化後に大学主催で始め、今年で12回目になります。全学同窓会は、その開催を人的・財政的に支援しています。私自身も7年間ホームカミングデイのディレクターを務めました。ホームカミングデイの豊田講堂で行う「名古屋大学の集い」では、代表幹事兼ディレクターとして全学同窓会の活動報告もしています。学生ボランティアや職員の昼食のサポートなどもしています。名古屋大学のホームカミングデイは、市民や保護者等にも開かれており、「名古屋大学の集い」の第2部は、名古屋フィルハーモニーの演奏会があるため、大変人気があり、市民の方などは抽選で参加者を決めており、倍率は非常に高いものになっています。

海外支部を作った翌年のホームカミングデイには、その支部の支部長を全学同窓会が招待しており、大学が指名する国際交流貢献顕彰の対象者も招待して、ホームカミングデイの前夜に、豊田会長や副会長および総長をはじめとする大学執行部の方々



フィリピン支部設立（前列左から伊藤代表幹事、コーディネーター支部長、斎藤名誉教授、豊田会長、濱口総長（当時）、豊田会長令夫人、ガスピコ副支部長）

もお呼びして、海外支部歓迎会も開催しています。なお、平成24年の全学同窓会設立10周年のときは、海外支部の全支部長を招待しました。「名古屋大学全学同窓会10周年記念誌」も上梓しました。

また、10年ごとの周年記念卒業生を、豊田会長と総長名で招待しており、毎年500名程度の卒業生・修了生が参加されています。既に6年が経過していますので、あと数年で全卒業生・修了生を招待することになります。平成26年のホームカミングデイ10周年記念のときは、同窓会の費用で「第10回名古屋大学ホームカミングデイ記念写真集名古屋大学からNagoya Universityへ2014」も上梓しました。

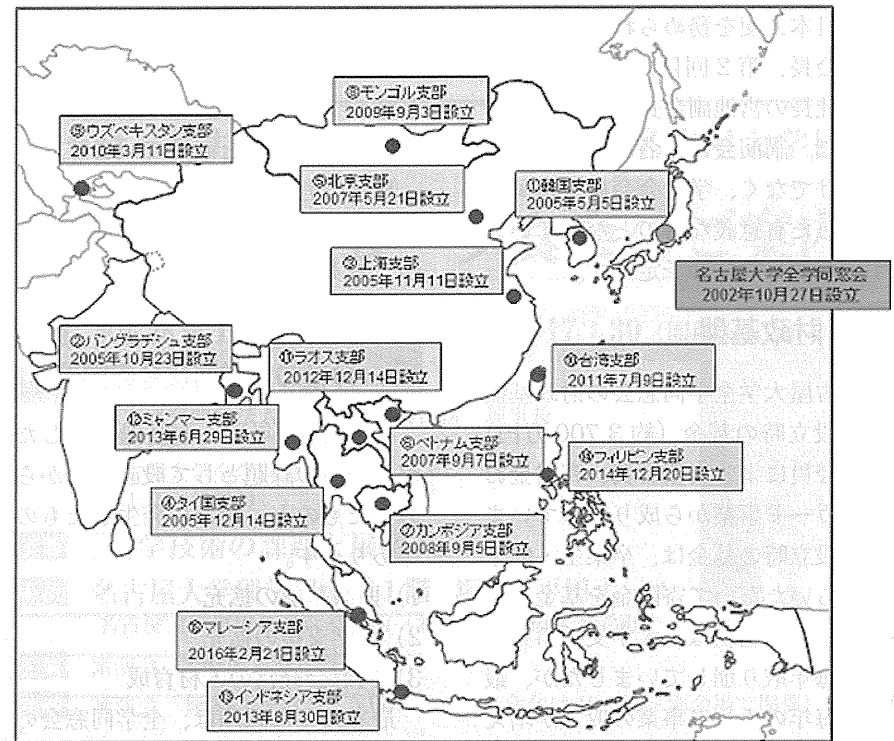
5) 情報発信

大学と協力して、平成17年から「名古屋大学と全学同窓会からのお知らせ」を、全卒業生・修了生に1年に1回郵送しています。8万通を超えるものが卒業生・修了生に届いています。既に10年が経過しており、かなり認知されるようになり、大学と全学同窓会の現況をお知らせするとともに、名古屋大学基金への寄附、支援会員のお願いおよび名古屋大学カードの入会案内をしています。

その他の情報発信として、全学同窓会では、年に2回ニューズレターを出しています。英文の要約を付けることによって留学経験者にも読めるように配慮しています。全学同窓会のホームページやツイッターなども開設して全学同窓会活動の情報発信をしています。

6) 名簿の整備

同窓会活動において名簿の整備は必須です。当初、部局同窓会からいただいた名簿をデータベース化して、情報発信などに活用していましたが、



名古屋大学全学同窓会 海外支部設立状況

2016年3月1日現在

セキュリティーや質向上などの関係上、平成24年に大学に移管し、全卒業生・修了生のレコードを作り直して、現在にいたっています。紙で印刷して公開するようなことはしていませんが、各自の住所変更はインターネットを使って可能にしています。

7) 学士会との共催講演会・夕食会

全学同窓会の講演会は以前から不定期に実施していましたが、平成26年から、学士会と共催の講演会・夕食会を名古屋大学の学内で開催しています。第1回目は、元駐中国日本大使を務められた丹羽宇一郎副会長、第2回目は、NEXCO 日本社長の宮池副会長を講師に迎えました。講演会は、名古屋大学関係者だけでなく、学士会会員や市民も参加した有意義なものとなっています。今後も継続の予定です。

4. 財政基盤

名古屋大学全学同窓会の財政基盤は、設立時の基金(約3,700万円)、支援会員による支援会費、寄附金およびカード事業から成り立っています。設立時の基金は、卒業生・修了生からいただいて寄附金を基金としています。当初は、大学支援事業のため毎年取り崩していましたが、最近は毎年のカード事業の収入が増えたので、取り崩しをやめています。支援会員は、会費(1口5,000円/

年)を支払って全学同窓会を支える会員のことで。寄附は、豊田会長の方針で、全学同窓会だけでなく、情報発信のときに、部局同窓会にも寄附できるようにしています。

名古屋大学カードは、2年間の準備期間を経て、平成19年から始め、現在は1万人を超える会員を獲得し、財政基盤の中心となっています。いわゆる同窓会カードですが、ヤングゴールドカードで、年会費は永久無料であり、海外旅行保険などカードについての特典は、全てカード保持者に行き、全学同窓会は、売上げの一定割合を収入としてカード会社からいただき、大学支援の原資にしています。最近では、毎年約100万円以上の増収を続けています。

私学の有名同窓会とは較べることができないほど弱体な財政基盤ですが、着実に独自財源の拡充を努力しています。

5. 今後の全学同窓会の課題

設立後14年近くが経過しましたが、今後の課題として設立当初からあったものと、新たに発生したものがああります。

1) 財政基盤の拡充

2) 大学支援の拡充

3) 同窓会経営の人材育成

最も大きな課題は、全学同窓会の活動を直接支援いただける会員の確保と組織化です。国内支部において

も、熱心に活動いただける会員もいますが、高齢化が進んでおり、若手の会員の理解と活動が全学同窓会には重要と思います。部局同窓会でもそうですが若手の会員は、同窓会活動をして何のメリットがあるかというのをまず聞きます。それに対しては、参画する中で、提案型で見つけ出してほしいと回答しています。存在感のある全学同窓会になるために、さらなる人的ネットワークの強化が必要だと思います。

4) 新たな海外拠点の拡充とネットワークの強化

これまで、アジア地域に15の海

外支部を設立しましたが、今後は北米、ヨーロッパおよびアラブ・アフリカ諸国の支部設立と、これらのネットワーク化が課題です。学士会とのさらなる連携も必要かもしれません。

名古屋大学全学同窓会は、このように課題が山積しています。しかし、後ろを振り返ると、少しは足跡を残し、当初考えた設立の理念に沿って進んでいるのではないかと思います。

学士会・名古屋大学全学同窓会共催 名古屋大学後援

名古屋講演会・夕食会のご案内

日時 平成28年12月9日(金) 16:00~17:30 (開場15:30~)

講師 濱口 道成 氏

国立研究開発法人科学技術振興機構 理事長
前名古屋大学総長(13代)
名古屋大学全学同窓会 顧問
学士会 代議員



演題 「科学技術の課題と展望」

場所 名古屋大学理学部南館1階 坂田・平田ホール
名古屋大学東山キャンパス内(名古屋市千種区不老町)

定員 講演会 250名/夕食会 50名

会費 講演会 無料/夕食会 5,000円(※夕食会は18:00~別会場で開催)

詳細は、名古屋大学全学同窓会のWebサイトをご覧ください。

URL: <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>